

昭和38年度
(1963)
第3回大会

男子優勝 札幌南

女子優勝 小樽緑陵

(現 小樽商業)

【 専門委員長 寸評 】

今年度から、女子も団体戦出場校が増えてA、Bブロック毎の予選を行った。
小樽地区は既に参加校数も増しているのので早く他地方に普及することを希望する。

(専門委員長 相原 嘉正)

優勝のよろこび

男子 札幌南高等学校

練習と研究、それから何といっても忘れることのできない、先輩の熱心な、きびしい御指導のおかげで勝ち得たものである。

南校庭球部は、本大会が始まる以前からも全国大会へ、毎回出場している伝統ある部であるだけに、我々もその名をけがさぬようと、ただ必死だった。4月から6月までのわずかな練習で、この大会に望むのであるから、それは相当きびしいものであった。朝早く登校して、授業の始まるわずかな時間を利用したり、放課後は、8時近くまで柔軟体操をしたこともしばしばだった。しかしそれ以上に、一つ一つの技術を身につけ、研究していく喜びと楽しみがあった。先輩が「今日は疲れただろうから、腕立て伏せ15回」というと、誰からともなく「20回」、と声のかかる。それぐらい皆練習に熱が入っていた。

今から考えてみると、苦しかった練習の思い出の一つ一つが優勝に結びついており、一にも二にも練習が大切だということを感じた。「年々、他の学校も強くなっているのだから、尚一層の努力が必要なんだ。」と先輩にいわれ、優勝が決定した時は、その感激と一緒に、ほっとした気持ちが込み上げてきた。そして苦しかった練習が、今では、楽しい思い出に変わってしまっている。この経験が、我々を前進させたことは言うまでもない。そして、これからの我々に力を与えてくれるだろう。

優勝のよろこび

女子 小樽緑陵高等学校

女子(小樽緑陵高等学校)高体連誌に「優勝のよろこび」掲載なし